

13 学校行事に参加できないMさん（小学校・中学校）

Mさんは、学校行事にスムーズに参加することが難しく、教室から動けなくなったり、活動場所（体育館や運動場）へ移動するにも時間がかかったりします。また、会場に行くことができても次第に落ち着きがなくなり、ふざけ出してしまいます。注意をすると周囲の友達に暴言や暴力をふるうなど、自分を抑えられなくなり、皆と一緒に並んだり活動に参加したりすることが難しい状態です。

Mさんが、学校の行事に楽しく参加できるようにするためにはどう配慮していけばよいでしょうか。

どうしてそうなるの？（考えられること）

合理的配慮・具体的な支援（例）

- ◎感覚に過敏さがあり、刺激に対して過剰に反応してしまうため
 - 音や歌など大きな音が鳴るような活動であるため
 - 大勢の児童生徒が集まり、ざわざわした雰囲気や刺激の多い環境であるため
- ◎いつもと違う活動や場所などに強い不安を感じているため
 - 活動の流れや終わりが分からず、見通しがもてないため
 - 衣装や小道具など着るものが変わるため
 - 体育館やグラウンドなどの広い場所が苦手であるため
- ◎以前の経験から（二次的な課題）
 - 友達とトラブルを起こすことで、その場から離れられるという経験をしているため

1 感覚過敏に配慮する <①-2-3> <③-2>

- 聴覚刺激に対する反応が過剰な時には、Mさんと保護者と相談をして耳あてなどを用いて、感覚刺激への負担を軽減する。
- どうしてもその場に居られない時には、クールダウンスペースを決めて、そこで待機できるようにする。



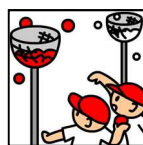
2 本人にわかるスケジュールを提示する <①-2-1> <①-2-3>

- 活動内容や流れが理解できるようなスケジュール表やカード等を手元に用意し、「今は、〇〇をするよ」「あと△△をしたら、終わりだよ」などと伝えて、活動の見通しがもてるようにする。タイマーなどを使ってもよい。
- Mさんが関係する活動についても、視覚化して予告するとともに、どのような参加の仕方だったら活動できるのかを事前にMさんと話し合い決めておく。
- 教師が近くに寄り添い、不安定になる前に言葉をかけ、頑張りを認めたり励ましたりする。

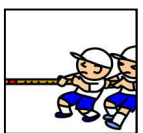


終わった活動にはシールを貼ったり花丸をつけたりして、視覚化して評価したので、最後まで取り組みました。

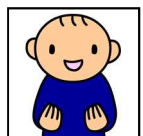
うんどうかい よてい表



①たまいれ



②つなひき



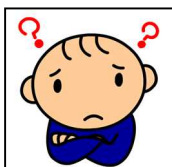
③おわり

視覚的に見通しや終わりを示したことで、落ち着いて参加できました。全員に向けてスクリーンや大型テレビ、移動黒板などに提示したので、どの児童にとっても、便利な支援となりました。

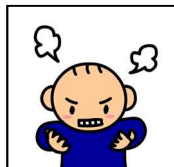
3 困った時のSOSカードを用意する <①-2-1>

- 困った場合に、挙手したり、意思表示カード（「外に出たい」「音がうるさい」等）を使ったりするなど、Mさんが伝えやすい方法で、そばにいる教師に伝えられるようにする。

SOSカード



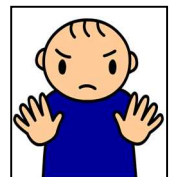
わからない



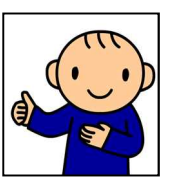
いらいら



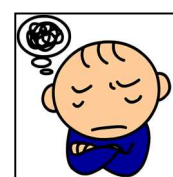
てつだって



いやだ



だいじょうぶ



むずかしい

Mさんが楽に伝えられる方法を身につけたことで、不適切な行動が徐々に減少しました。

※参考資料

ドロップレット・プロジェクト
視覚支援シンボル集「ドロップス」

<http://droplet.ddo.jp/>

14 授業中、突然パニックを起こし混乱するNさん（小学校）

Nさんは、授業中に突然、大きな声を出したり、教室から出て行ってしまったりすることが目立ちます。教師からプリントを渡されると取り組むのですが、早く終わってしまうとクラス全体が終わるまで待てなかったり、教師の話が始まると聞いていられずに、教室の外に出てしまったりすることがあります。どう配慮していけばよいのでしょうか。

どうしてそうなるの？（考えられること）

- ◎授業で何をするのか、授業がいつ終わるのがわからないことから、Nさんは強い不安を感じていたため
- ◎わからないことから生じる不安感を、うまく言葉で伝えられず、大声を出す、教室の外に出るといった手段を取っていたため。

合理的配慮・具体的な支援（例）

1 不安感を伝えるための、コミュニケーション・カードを作成・活用する 〈①-2-1〉

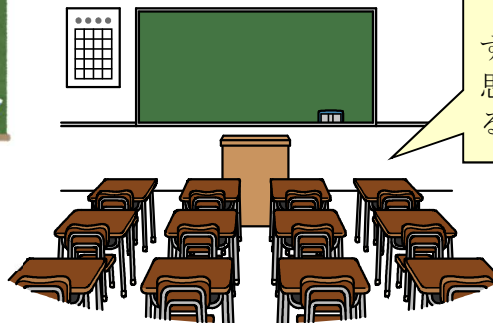
○Nさんが、先の見通しを持っていないことから生じる不安感を教師に伝えるために、「教えてください」「次の予定はなんですか」「休ませてください」などの文字・絵カードを準備しておく。



コミュニケーション・カードを持っていることで、安心感が生まれました。

2 教師に不安感を伝えやすい座席にする <①-2-1>

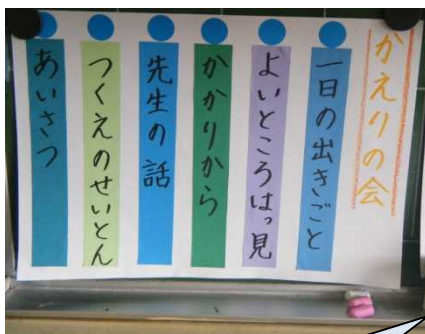
- 座席はなるべく教師の教卓等に近い位置や、前の方の中央寄りに配置する。
- Nさんの手助けができる児童を隣にする等の座席配置が望ましい。



不安を感じたときに、すぐに先生に、自分の思いを伝えることができるような座席配置を。

3 見通しをもつことができるように、スケジュールや一時間の授業の流れをわかりやすく伝える <①-2-1>

- 教室前面の黒板や黒板まわりの空間を活用して、スケジュールを分かりやすく提示する。
- また、板書は授業の流れが見通せるように工夫する。



見通しがもてるようになったことで、パニックを起こす回数が減りました。



4 ストレスを軽減するために、事前に「疲れたら休んでもよい」ことを伝えたり、待機場所を用意したりする <①-2-3>

- 待機する場所（空き教室や保健室など）を事前に伝えておく。
- 気分が落ち着いたら必ず教室に戻ってくることを約束しておく。

15 体育の授業に参加しようとしなない〇さん(小学校)

〇さんは、体育の時間になると、授業に参加するのを嫌がったり、逃げ回ったりします。体操服に着替えることも嫌がります。本人に理由をたずねても、うまく話せません。どう配慮していけばよいでしょうか。

どうしてそうなるの？(考えられること)

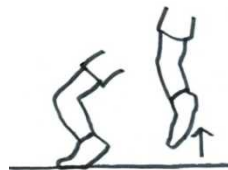
- ◎協調運動の苦手さがあり、失敗経験を繰り返したことにより、運動に積極的に関われないため
- ◎学習や活動の内容、ルールが理解できず、意義や満足感を得られないため
- ◎感覚の過敏さがあり、混乱してしまうことがあるため

1 基本的な動きを個別に指導する <①-1-1> <①-2-2>

- 集団に入る前に、活動内容に応じて必要な動きを、腕の動きだけ、足の動きだけなどに分け、個別に練習する機会をつくる。
- 動きのコツやポイントを分かりやすい言葉で伝える。

(例)なわとびを跳べるようになるために

足の動きを練習



- ① 両足跳び
- ② その場でジャンプ
- ③ リズムに合わせてジャンプ

できることからスモールステップで行うことで、ほめる機会が増えました。

手や腕の動きを練習



ヘリコプター

大きなタイヤ



せんぶうき



合理的配慮・具体的な支援(例)

2 参加の仕方を工夫する <①-2-2> <①-2-3>

- 「整列と準備運動だけは参加できる」「道具の準備と片付けならできそう」など、部分的にでも参加できることを一緒に考える。できたことや努力したことを認めるようにする。



自分で決めた部分だけでも参加できたことが認められ、自己肯定感と集団への所属意識が育ってきました。



3 事前に活動やルールを確認する <①-2-1> <①-2-2>

- 集団での説明を聞く前に、活動(運動)の内容やルール等を個別に確認しておく。言葉での説明を聞くだけでなく、実際に見本を見たり、映像や本を見たりして、目で見て理解できるようにする。

タブレットやパソコンで映像を確認



事前に動きを映像で見せてイメージできるようにしたり、困った時に確認できるよう絵カードを工夫したりすることで、理解しやすくなりました。

4 感覚の過敏さ、刺激に対する弱さへ配慮する <①-2-3>

- 人が多く集まる中での刺激、広い場所での不安、体操服の生地 of 触感など感覚の過敏さや刺激の弱さがあることを理解し、児童ができることを支援する。



わがままや怠けでそうしているのではない、理由や背景に何かがあるということを職員で共通理解するとともに、周囲の児童の理解もすすめることが大切です。